

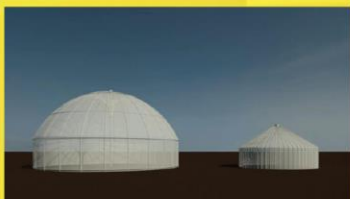
COVID-19
感染対策
対応ドーム

医療用ゲル型仮設ドーム

CONNECT DOME 1.0

CONNECT FACILITIES/CONNECT PEOPLE/CONNECT LIFE/CONNECT FUTURE

コネクトドーム 1.0



【ゲル型ドーム】



【用途に応じたゾーニング】



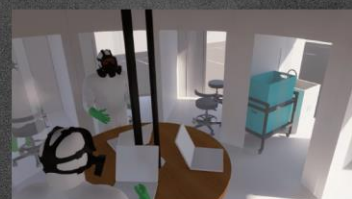
【屋内での利用】



【ドライブスルー検査・診療】



【発熱外来ユニット】



【終息後の再利用】

CONNECT DOME 1.0 8つのメリット

コネクトドームは、病院が満床で感染患者の収容ができない事態での感染患者収容施設及び、重症患者対応医療ゾーンの提供を目的とします。



円形空間なのでスタッフエリアから多くの患者を集中看護が可能

一目で部屋全体の様子を把握することができるので、効率的に看護ができ、医療従事者の負担を軽減します。



空気の流れをコントロール

効率の良い換気システムでドーム内の空気循環のコントロールが可能、医療従事者の感染リスクを軽減します。



最大直径 12mの大空間

大型ドームでの大空間提供。8mと12mの2タイプを用途に応じてご利用頂けます。



豪雨・強風に耐える

特許出願中の特殊構造により豪雨・強風に強い。さらに、ゲル型なので風をうまく逃がすような作りになっています。



設置・撤去・移動が容易

テントやビニールハウスのような構造物なので、設置や撤去・移動が容易にできます。



終息後は、再利用も

終息後は、防災テントなど様々な用途で再利用できます。解体することでコンパクトに収納することができます。



施設の増減が可能

患者の受け入れ状況により、施設の増減、ゾーニングの方法を自由に変えることができます。



内部レイアウトが自由に

状況や要望に応じて、建物内部を自由に設計・レイアウトすることができます。

PICK UP

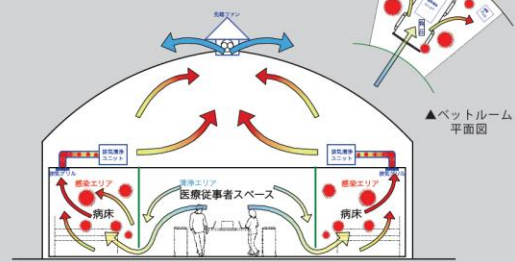
空気の循環を制御することで、医療従事者への感染リスクを軽減

コネクトドームのもっとも優れている点のひとつは、空気の流れをコントロールしている点です。感染患者と医療従事者スペースを分け、空気の循環を制御することで医療従事者への感染リスクを軽減することができます。



▲山梨試験ドーム

【ドーム内の空気循環】

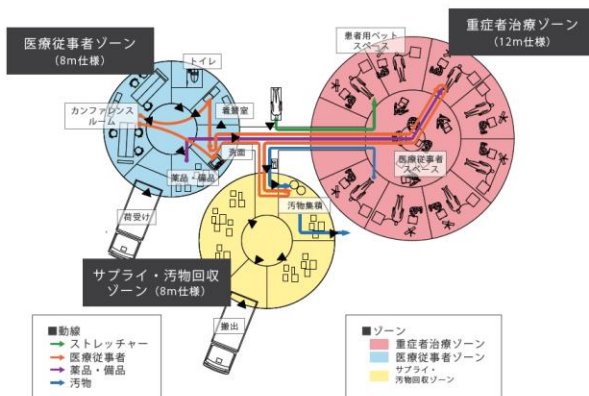


▲ドーム内立面図

屋外利用

駐車場や公園など広いスペースが確保できる場合の利用例
幅広い用途とゾーニングで様々な場面に対応します。

患者や施設の増減に対しても自由に変更できるスペースがあり、病院の近くに設置することで医療従事者の負担を軽減するだけでなく、緊急事態にもスピーディに対応することが可能です。



▲医療従事者ゾーン



▲サブライ・汚物回収ゾーン

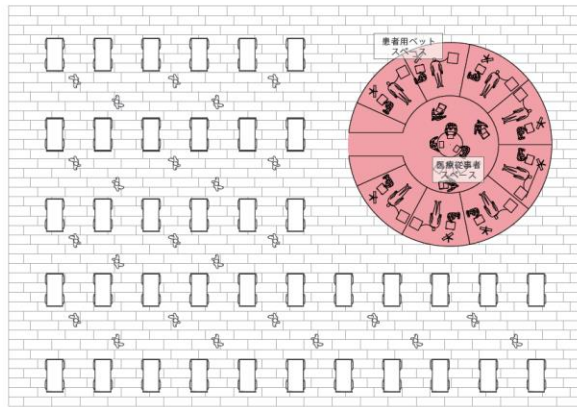


▲重症者治療ゾーン

屋内利用

体育館や展示会場など屋内空間での活用も可能

体育館や展示会場を病床とする場合でもゾーニングが必要。重症者と軽症者を分け集中管理することで処置を効率よく行うことが可能です。容態が急変した患者に対しても素早い対応が可能です。



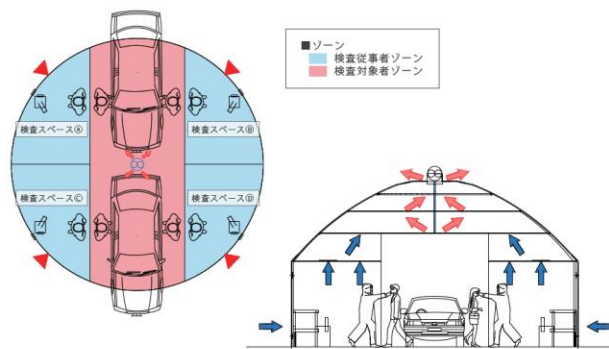
簡易検査場

ドライブスルー型 検査所

院内感染・医療従事者への感染リスクを軽減するためのドライブスルー型検査所を、このドームでつくる
ことができます。より効率化した検査を安全に提供することが可能です。



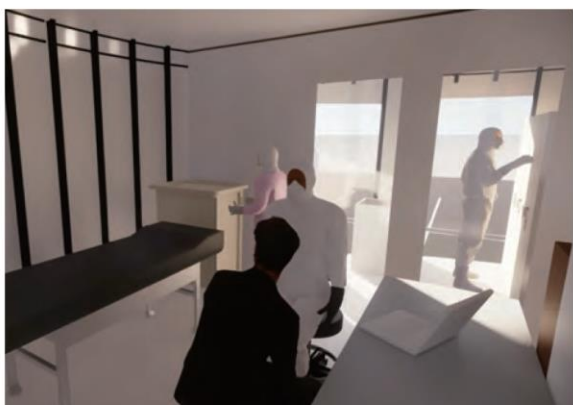
【ドライブスルー型 検査所配置例】



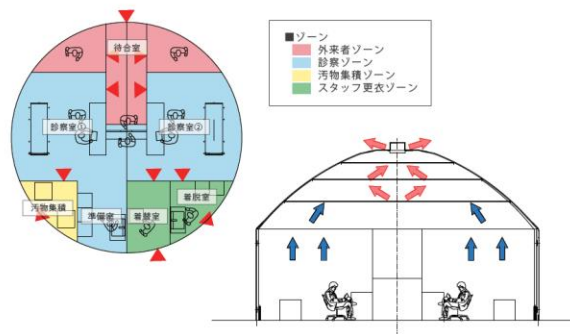
外来ユニット

発熱外来ユニット

感染防止を考慮した外来ユニット。中心に診療ゾーンを設け、順次診察を行います。スタッフ同士のコミュニケーションを円滑に行いながら効率良く診断することができます。



【発熱外来ユニット配置例】



COVID-19 終息後の再利用…



終息後も災害時の待機所や診療所・トリアージ、地域コミュニティ施設などとして再利用して頂けます。

解体は、おそよ一日で可能。コンパクトにまとめ、院内や自治体倉庫などで保管して頂けます。

※解体・再組立ては別途費用が必要です。